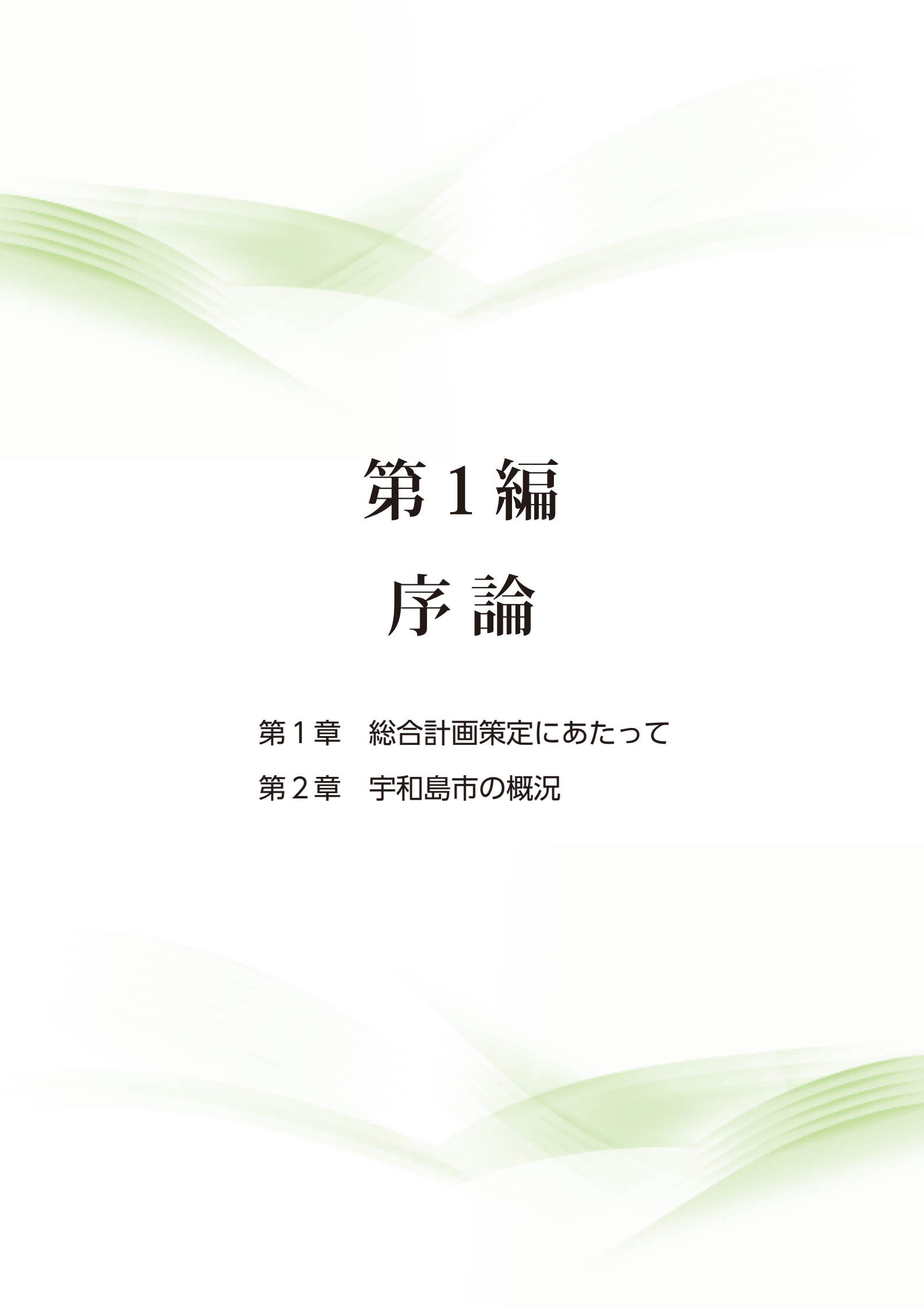


The background of the page features abstract, flowing green lines that create a sense of movement and depth. These lines are layered and semi-transparent, giving the design a modern and organic feel.

第1編

序論

第1章 総合計画策定にあたって

第2章 宇和島市の概況

第1章 総合計画策定にあたって

1 総合計画策定の趣旨

2005年に、旧宇和島市、旧吉田町、旧三間町、旧津島町の4市町の合併によって誕生した宇和島市は、宇和海に面し、豊かな自然環境と温暖な気候に恵まれ、特色ある農林水産業のまちとして発展してきました。また、宇和島藩伊達家の史跡、広域的な拠点都市としての機能、闘牛などの特色ある観光・交流資源といった地域特性を有しています。

本市では、これらの特性や資源を最大限に生かした“宇和島市らしい”まちづくりを市民とともに進めていくために、また、市民の福祉の増進が最も効果的・効率的に行えるように、合併後初となるまちづくりの指針を2007年度に策定しました。2017年度を目標年度とする基本構想と、2012年度を目標年度とする前期基本計画からなる第1次宇和島市総合計画「宇和島新時代への道」です。その後、前期基本計画の終了年度である2012年度には、基本構想の終了年度である2017年度を目標年度とする後期基本計画を策定しています。

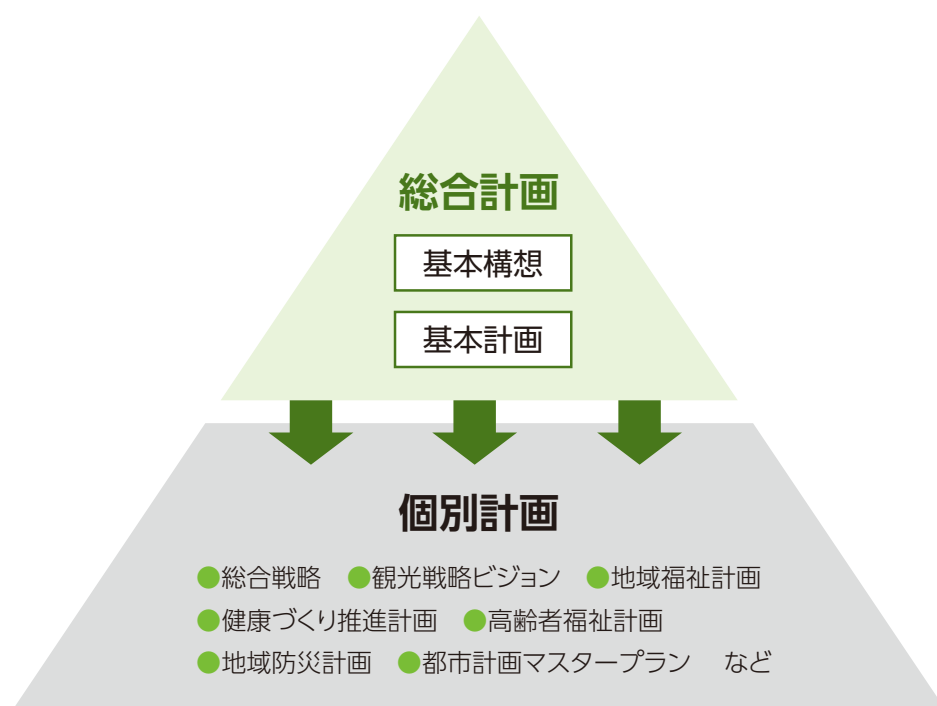
しかしこの間に、四国横断自動車道（西予宇和～津島岩松）の開通、世界的な景気低迷の長期化、税収の伸び悩み、若者の流出や少子高齢化の一層の進行など、本市を取り巻く社会経済情勢は大きく変化し、市民のニーズやライフスタイルそのものまでを変えようとしています。

このような状況のもと、第1次総合計画の計画期間が2017年度末をもって終了します。そこで、次代における本市の発展のため、市民の未来を見据えた政策、施策の展開を明らかにし、市民全員の力を結集して計画的にまちづくりを進める「第2次宇和島市総合計画」を策定しました。

2 総合計画の位置づけと構成

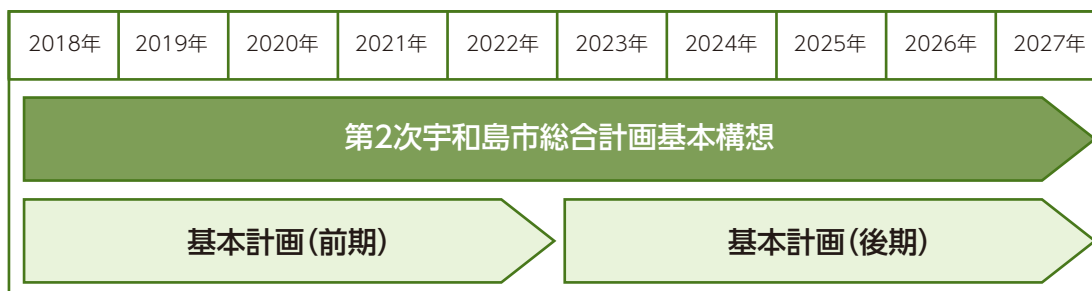
本計画は、まちづくりの基本的方向を総合的かつ体系的に示し、計画的に市政を運営していくための指針となるものであり、市の最上位計画として位置づけます。

「基本構想」は目指すべき将来像と、それを実現するための政策や施策などを示したもの、「基本計画」は基本構想に基づき、今後推進する施策の内容や主要事業などを各分野にわたって体系的に示したもので、各分野の個別計画の基本となるものです。



3 総合計画の期間

基本構想の期間は、2018年度から2027年度までの10年間、基本計画の期間も同様ですが、時代の変化を勘案し、中間年次の2022年度に見直しを図ります。



第2章 宇和島市の概況

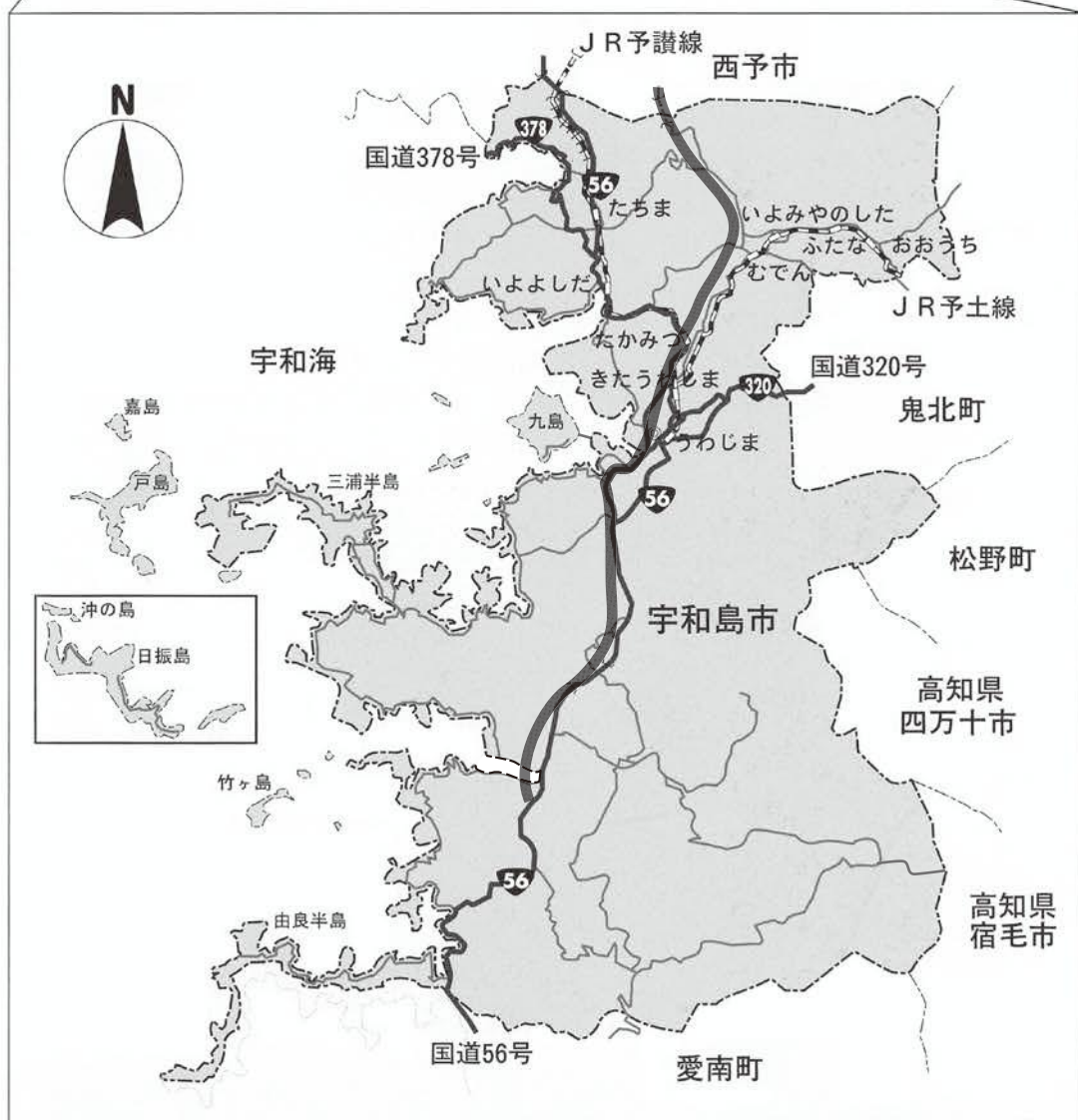
1 地勢・気候・交通・歴史・特産

■ 地勢

本市は、2005年に旧宇和島市、旧吉田町、旧三間町、旧津島町が合併して宇和島市となりました。四国の西南部に位置し、県庁所在地の松山市まで、車で1時間30分ほどの距離にあります。北は西予市、東は鬼北町、松野町、高知県四万十市及び宿毛市、南は愛南町と接し、西は宇和海に面しています。面積は468.19㎢で、愛媛県土の8.2%を占め、愛媛県下20市町では4番目の大きさです。

宇和海沿岸は、入り江と半島が複雑に交錯する、変化に富んだ典型的なリアス式海岸が続き、足摺宇和海国立公園に指定されており、日振島・戸島をはじめとする5つの有人島と多くの無人島があります。そのうちの一つである九島は、2016年4月に九島大橋が開通して本土とつながり、交流人口が増加傾向にあります。また、西側を除く三方は急峻な山々に囲まれた起伏の多い複雑な地形となっており、特に東にそびえる鬼ヶ城連山は、四季折々に姿を変えながら、雄大な自然を感じさせます。市域の大部分が山地という中で、沿岸部の平野や内陸部の盆地に市街地や集落が点在しています。須賀川、岩松川、立間川など、河川の多くは宇和海へ注いでいますが、三間川は四万十川に合流し、高知県へ流れています。





■ 気候

本市は、瀬戸内沿岸と太平洋沿岸の中間に位置し、黒潮の影響を受けているため、年平均気温は16～17℃と温暖な気候です。そのため、桜の開花時期が、全国でも最も早い地域の一つとして知られています。ただし、冬は、北西の季節風が関門海峡を吹き抜けてくるため、山間部においては積雪し、厳しい寒さに見舞われます。また、年間降水量は、日本でも降水量の少ない地域である瀬戸内海側の今治などに比べるとやや多くなっています。

▼ 宇和島市の気象データ

年 次	降水量(mm)	気 温 (℃)			湿 度 (%)
	合 計	日平均	最 高	最 低	平 均
2007年	1555.5	17.5	34.9	-1.5	69
2008年	1569.0	16.7	35.9	-1.4	71
2009年	1310.5	17.0	34.7	-2.0	70
2010年	1684.0	17.1	35.7	-2.5	71
2011年	2142.0	16.8	34.4	-2.2	70
2012年	1925.5	16.5	34.4	-1.4	71
2013年	1364.0	17.2	36.9	-1.7	71
2014年	1903.5	16.7	35.5	-1.8	73
2015年	2095.0	17.1	34.8	-1.2	76
2016年	1991.5	17.9	34.8	-2.9	76

資料：気象庁 HP 過去の気象データより（観測地点：宇和島）

■ 交通

本市には、幹線道路として、国道56号と四国横断自動車道が整備されています。国道56号は、高知県高知市から愛媛県松山市に至る四国最長の国道で、宇和島市民にとって生活基盤となる道路です。四国横断自動車道は、本市から北は松山市方面、南は高知方面に向かう高速道路です。四国縦貫自動車道などとともに「四国8の字ネットワーク」の整備が進んでいるところであり、四国4県が8の字の高速道路で結ばれることにより、より広域的な効果が期待されています。

鉄道網は、松山市及び香川県高松市に向かうJR予讃線と、清流四万十川に沿って、高知県四万十町に向かうJR予土線が通り、宇和島駅は両路線の終着駅です。JR予讃線は、主に宇和島-松山間の通勤・通学の足として、重要な役割を果たしています。JR予土線は、特急がない普通列車で、愛媛県と高知県を結ぶ唯一の鉄道路線です。ユニークな外観の「しまんトロッコ」、「海洋堂ホビートレイン」、「鉄道ホビートレイン」は、「予土線3兄弟」として、地元はもちろんのこと、観光客に親しまれています。

このほか、神戸・大阪方面への高速バスや、松山市への急行バスが運行されています。

今後は、宇和島駅前の図書館を含めた複合施設（愛称：パフィオうわじま）の活用により、広域的な交流拠点としての役割がますます高まっています。

■ 歴史

宇和島圏域では、古代から海山の恵みを糧に、穏やかで豊かな暮らしが営まれていましたが、現在のような四国西南地域の中核都市となったのは、桃山時代、宇和郡10万石の城下町が築かれたことに始まります。江戸時代に伊達政宗の長男秀宗が宇和島を拝領してのち、明治を迎えるまで歴代藩主の善政によって繁栄し、独自の文化が築きあげられました。幕末には伊達宗城という賢侯が登場し、政局で重要な立場を担いました。

市内には国の重要文化財で現存12天守の一つを有する宇和島城や、大名庭園として名高い国名勝の天赦園、家老山家公頼を祭る和霊神社など、伊達家ゆかりの史跡や名勝を各所に見ることができます。また、宇和島伊達家に伝わる、質量ともに全国屈指の大家家史料や調度品を市立伊達博物館にて常設展示しており、宇和島は歴史と文化の花薫る伊達10万石の城下町の歴史を今もなお歩み続けています。

■ 特産

豊かな自然に恵まれた本市は、全国に誇る特産物が数多くあります。

水産物においては、複雑に入り組んだ地形を活用した養殖漁業が盛んで、養殖真珠の生産量は全国1位です。穏やかな宇和海で育まれた真珠は、その優雅な輝きで人を魅了します。さらには、アクセサリーをはじめとした加工品や、真珠の粉を使った「パールエステ」など、その魅力は多方面に及びます。

また、全国有数のマダイ・ハマチ養殖業の産地であり、きめ細かい脂のりで、とろけるような食感の「だてまぐろ」や、身が引き締まり、持続する旨みが特徴の「戸島一番ブリ」などが愛媛県のブランド産品に認定されています。

農産物においては、愛媛県は柑橘収穫量・品目数が全国1位ですが、その中でも本市は各品目において、県内で上位を占めており、一年を通じて様々な柑橘を楽しめます。特に、柑橘の中で唯一、アントシアニンを含む真っ赤な果肉の「ブラッドオレンジ」は、国内初の生産地として知られています。一方、県内有数の米産地としても知られており、特に、昼夜の寒暖差が大きく、粘土質の肥えた土壌と、徹底した品質管理で栽培される「みま米」は、県内はもちろんのこと、全国の方々にも愛されています。

そして、これらの食材を生かした独特の食文化が引き継がれています。醤油だれに生卵を混ぜ、その中に新鮮な生の鯛の身を漬け、それをあつあつのご飯にのせて食べる「宇和島鯛めし」や、宇和海でとれた小魚を骨ごとすりつぶし、すり身にしたものを油で揚げる「じゃこ天」は、市民の心に根付いた郷土の食であり、市内各店舗では様々な味わいを堪能できます。



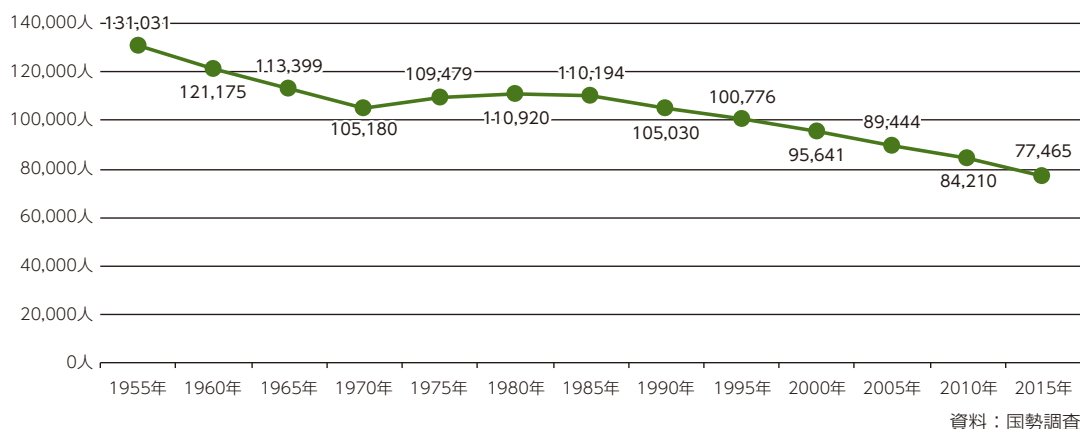
2 人口動態

(1) 人口の推移

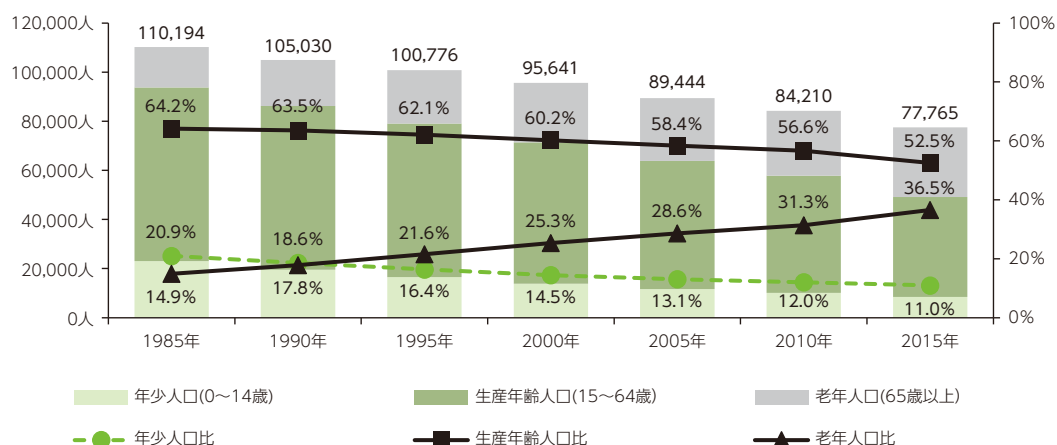
本市の人口は、1955年の131,031人（旧4市町合計）をピークに、その後はおおむね減少傾向にあり、2015年には77,465人となっています。年齢3区分の人口推移をみると、1985年から年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15～64歳）は減少している一方、老年人口（65歳以上）は増加しており、1995年には、年少と老年の人口割合が逆転しています。その後も差は広がり続け、少子高齢化が進行している状況です。

2015年の人口に占める老年人口の割合は36.5%で、人口の3人に1人は65歳以上となっています。（参考：国勢調査資料によると2015年度の全国の老年人口割合は26.6%、生産年齢割合は60.7%、年少人口は12.6%となっています）

▼ 人口の推移



▼ 年齢3区分の人口推移



※年齢不詳者がいるため合計が100%にならない場合があります。

資料：国勢調査

3 主な産業の状況

■ 農林業

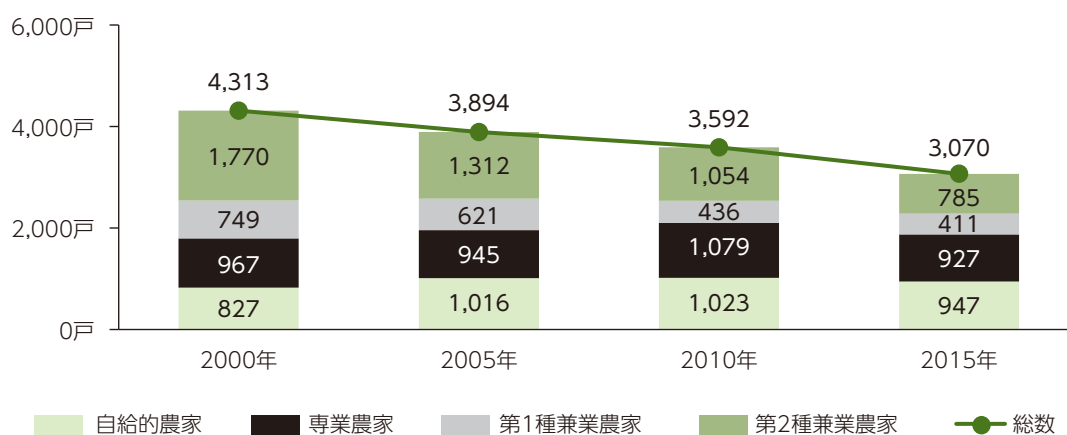
本市は、温暖な気候と傾斜地の多い地形、内陸部の盆地など独特の自然条件を生かし、古くから農業を基幹産業として発展してきました。現在、急傾斜地における果樹栽培と平野部における米の生産を中心に、野菜生産や畜産などが行われ、全国有数の柑橘産地として内外に広く知られています。

しかし、近年、農家数は減少の一途をたどり、特に、第1種・第2種を合わせた兼業農家の減少は著しく、それに対して、自給的農家の数は横ばい状態となっています。また、農業従事者の高齢化、担い手不足から遊休農地・耕作放棄地の増加、鳥獣被害の増加、消費者ニーズの変遷などによる価格低迷などの要因により、兼業農家1戸の所得における農業の割合が少なくなっています。さらに、畜産においても高齢化等による転廃業が進んでいる状況にあります。

一方林業では、森林面積（333km²）が市の総面積（468.19km²）の約7割を占めており、そのうち約7割が民有林で、スギ、ヒノキを中心とする広大な人工林が形成されています。

これらの人工林は、資源として本格的に利用可能な時期を迎えていますが、林道・作業道の整備の遅れや外材の輸入増加による価格の低迷、林業従事者の減少や高齢化などにより、放置された森林が増加し、森林機能の総体的な低下が懸念されています。

▼ 農業（農家数の推移）



自給的農家：経営耕地面積が30a未満かつ農産物販売金額が年間50万円未満の農家

専業農家：世帯員の中に兼業従事者が一人もいない農家

第1種兼業農家：農業所得の方が兼業所得よりも多い兼業農家

第2種兼業農家：兼業所得の方が農業所得よりも多い兼業農家

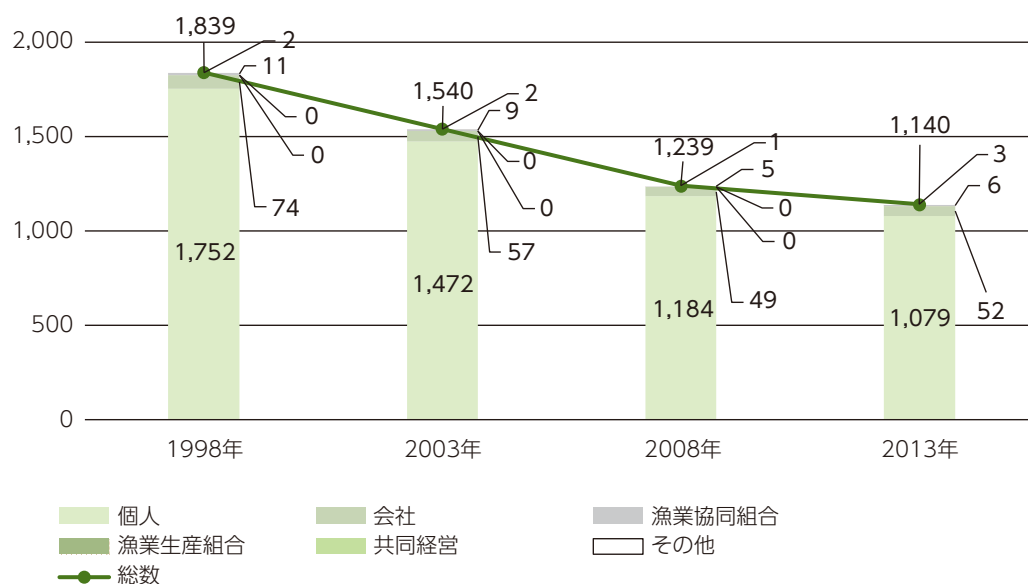
資料：農林業センサス

■ 水産業

本市は、西部一帯に広がる恵み豊かな宇和海を生かした水産業のまちとして発展してきました。現在、52の漁港を有し、古くからの漁船漁業のほか、ハマチなどの魚類や真珠・真珠母貝の養殖漁業が盛んで、全国有数の水産物の生産地として知られています。

本市ではこれまで、漁港や漁場の整備など生産基盤の整備、漁業経営体の育成等による経営体制の充実、安全・安心な水産物の供給支援をはじめ、水産業の振興に向けた多様な取り組みを積極的に進めてきました。しかし、漁業者の高齢化や魚価の低迷等に伴い、1998年に1,839であった漁業経営組織別経営体数は、2013年には1,140にまで減少するなど、深刻な状態にあります。

▼ 漁業経営組織別経営体数



団体経営体							
	総数	個人	会社	漁業協同組合	漁業生産組合	共同経営	その他
1998年	1,839	1,752	74	-	-	11	2
2003年	1,540	1,472	57	-	-	9	2
2008年	1,239	1,184	49	-	-	5	1
2013年	1,140	1,079	52	-	-	6	3

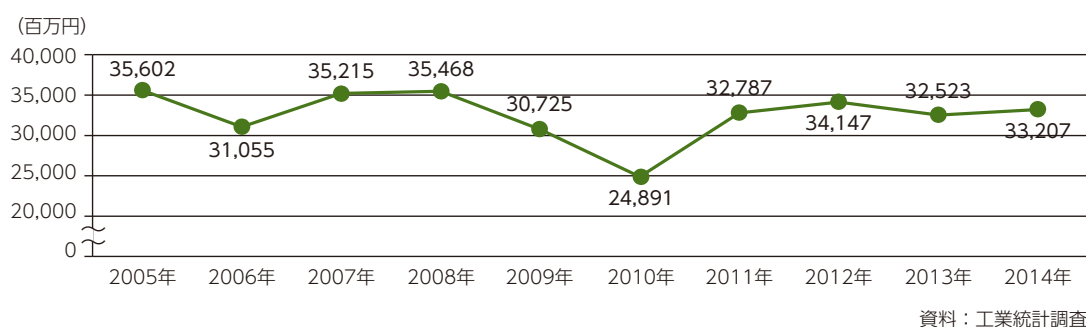
資料：漁業センサス

■ 工業

本市の工業は、縫製や食品加工、真珠加工、木材製品製造などの伝統的な地場産業と、機械部品製造などの誘致企業によって構成されており、これまで本市経済の発展と雇用の場の確保に貢献してきました。近年は取り巻く環境が厳しい中で、製造品出荷額等は減少傾向にありましたが、2011年以降はほぼ横ばいの状態が続いています。

今後は、産・学・官等各分野の連携を強化して一体的な支援に努め、地場産業の高度化や新産業の開発、起業を促進していくとともに、積極的な誘致活動を展開し、優良企業の立地を促進していく必要があります。

▼ 製造品出荷額等の推移

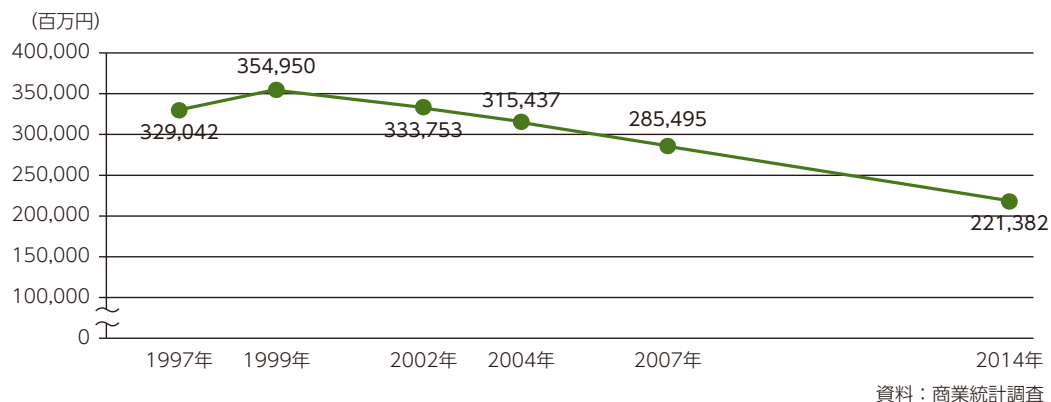


■ 商業

本市は、古くから広域な商業中心地として発展してきました。しかし、市外の大規模店舗や通信販売等への消費の流出が進み、市内の商店は窮地に立たされ、市の商品販売額は1999年以降減少が続いています。

このような中、本市では、商店街づくり事業や中小企業振興資金融資制度等によって商業活性化を図ってきました。今後も、これらの事業を継続・進展させるとともに、四国西南地域の中核都市としての地域特性を生かすため、地域資源を生かした特産品の開発や市街地活性化を目指した事業を展開し、商業振興を図ることが急務となっています。

▼ 商品販売額



■ 観光業

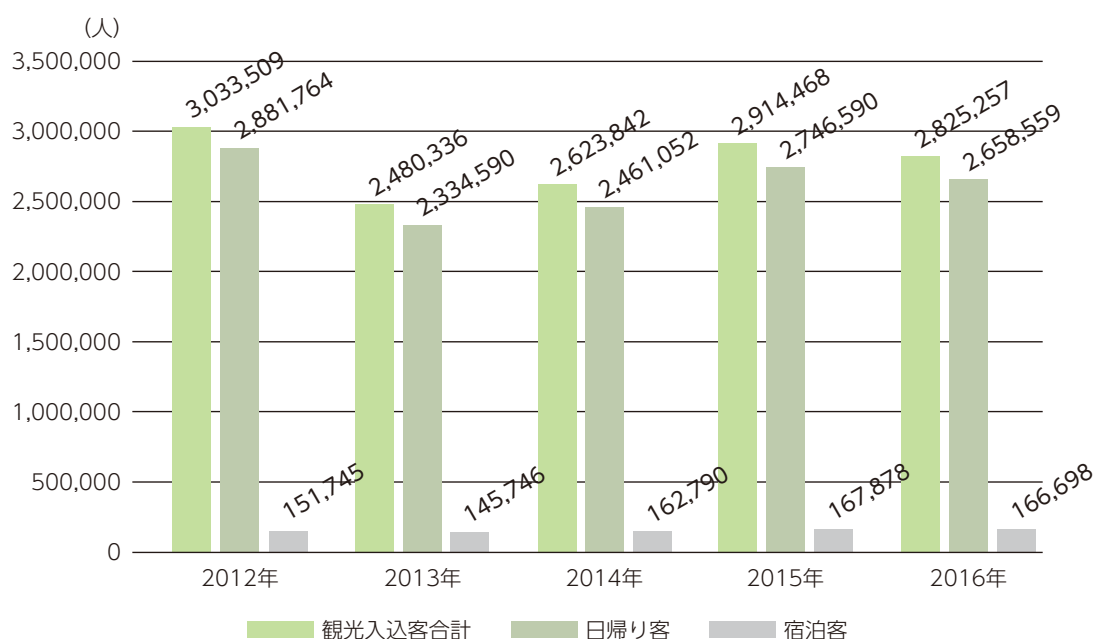
本市には、緑輝く山々と宇和海に包まれた豊かな自然資源や、宇和島城、天赦園、和霊神社に代表される伊達家ゆかりの歴史資源、全国的に有名な闘牛や最大のイベント「うわじま牛鬼まつり」をはじめ、きさいや広場、道の駅みま、四国霊場札所、南楽園、吉田ふれあい国安の郷、さらには津島やすらぎの里などの温泉や、海水浴場、キャンプ場、フィッシングセンター、郷土料理、みやげ品など、有形・無形の観光・交流資源が数多くあり、観光入込客合計は例年年間推計200万人を超えています。

しかし、本市の観光は、これらの多様な資源を十分に生かしきれていない状況にあり、観光都市としてのまちづくりへの取り組みに余地を残しています。

このため、今後は、交流人口の増加と、観光・交流から移住・定住への展開も視野に入れながら、歴史資源をはじめとする既存の観光資源のほか、柑橘類や米、魚、真珠などの農林水産資源を生かした体験型・滞在型の観光・交流機能の強化を重点に、既存資源の充実・活用やメニューの開発、PR活動の強化、市民のもてなしの心の醸成など、多面的な取り組みを進めていく必要があります。

また、多くの観光施設が老朽化しており、整備が行き届かない面が出てきているため、本市の観光の将来像を見据えた施設整備や管理の検討が必要となります。

▼ 観光客数



資料：観光客数とその消費額

4 市民の意識・意向

市民の意見を把握するために行ったアンケート調査の結果やワークショップの結果から、本計画策定時の市民の意識等を示します。

(1) 満足度・重要度アンケート調査

この調査は、本市の行政サービスに対する市民の満足度、重要度や市政への意見を把握するために市が独自で実施したものです。ここでは2016年度の調査結果から、本市の現状や将来の方向性についての市民の意識や意向を抽出しています。

(参照) 2016年度満足度・重要度アンケート調査概要

調査対象：20歳以上の市民3,000人

(宇和島市住民基本台帳から無作為に抽出)

調査方法：郵送による配布・回収

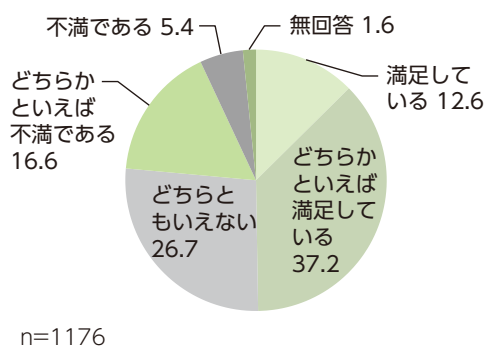
回収数：1,176件

(統計学上、信頼度90%を満たす回答数が得られています)

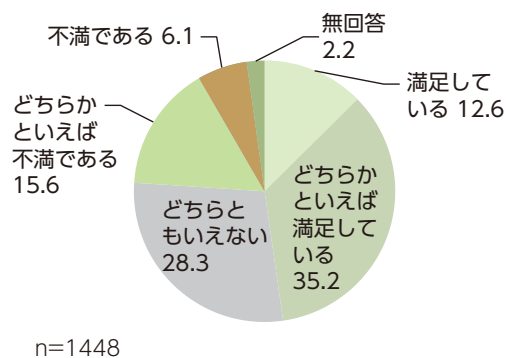
① 暮らしやすさ

本市の暮らしやすさについては、「満足している」12.6%、「どちらかといえば満足している」37.2%を合わせた“満足している”と回答した人は49.8%で、およそ半数になります。2012年度の前回調査では、「満足している」12.6%、「どちらかといえば満足している」35.2%を合わせた“満足している”は47.8%で、2016年度のほうが満足度はわずかに高い結果となりました。

▼ 今回調査（2016年度）結果



▼ 前回調査（2012年度）結果



② 行政サービスに対する満足度

2016年度のアンケート調査において、本市の行政サービスについての設問全42項目中、満足度の高い3項目及び満足度の低い3項目は、下記のとおりとなっています。

【満足度の高い3項目】

順位	項目
1	水道の整備状況について
2	自然環境の豊かさについて
3	ごみ処理・リサイクルについて

《自由意見》

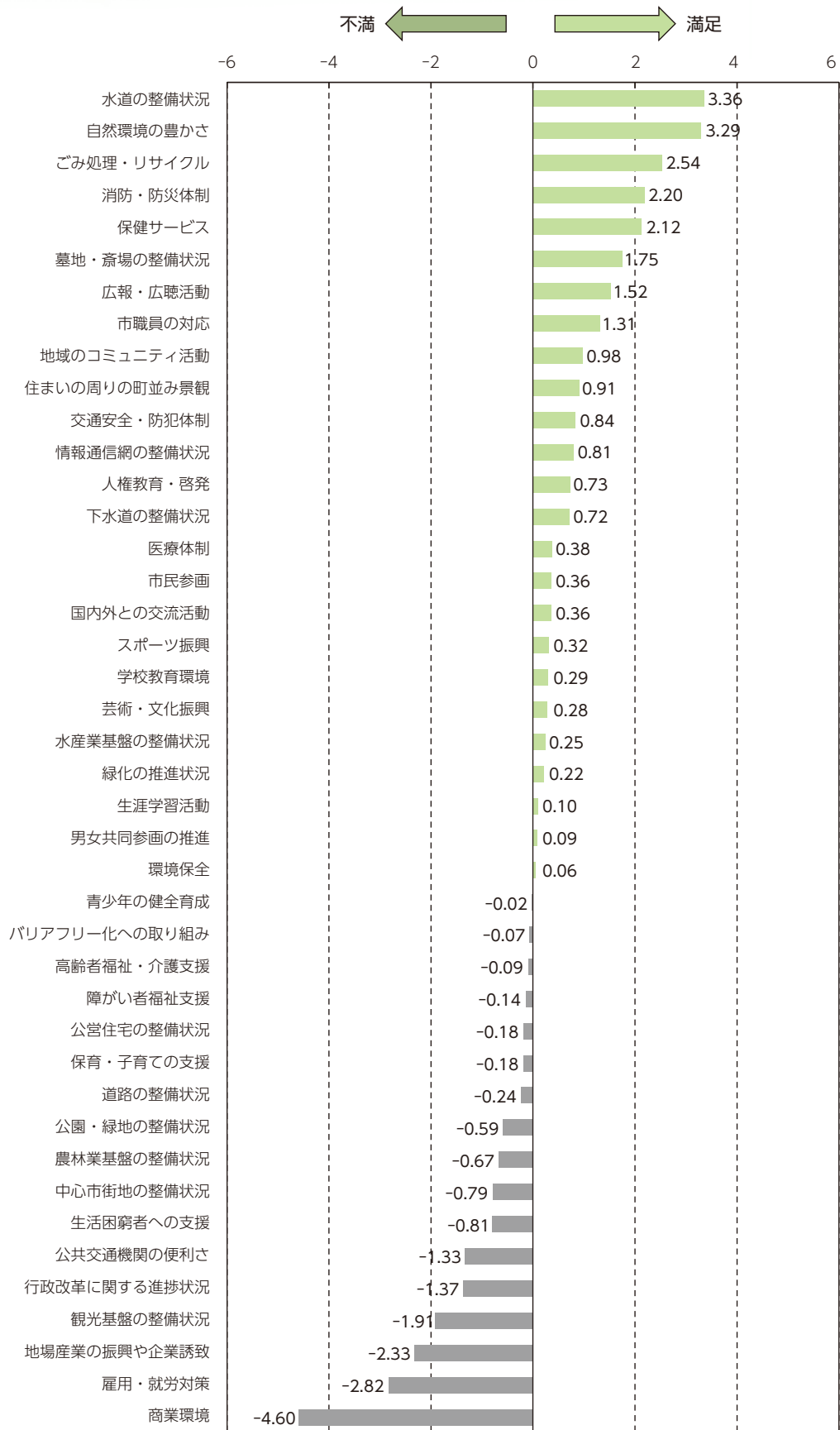
- 人が暖かい、自然がいっぱい、食べものがおいしい宇和島市は、子どもを育てる環境としては良いと思います。
- 宇和島の海や自然、歴史や文化が大好きで、子どもたちを残し、伝えて行けたらいいと思います。
- FMがいや、U-CAT、広報、TVからいろんな情報を集めています。分かりやすくなってきています。

【満足度の低い3項目】

順位	項目
1	商業環境について
2	雇用・就労について
3	地場産業の振興や企業誘致について

《自由意見》

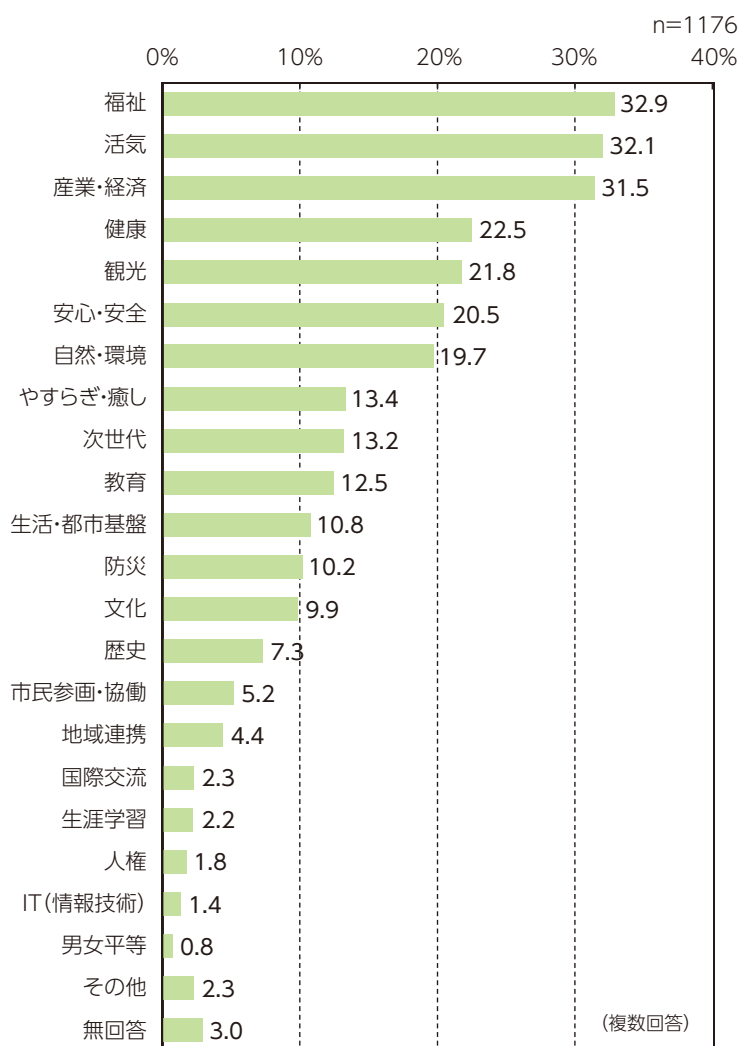
- 商店街は、市内の経済や情報の発信源となるような変革が必要だと思います。
- 大きな商業施設があれば、週末、松山などに買物に行く若い世代も宇和島にお金を落とすようになると思います。
- 給料が低く、宇和島に住み続けることを考えると不安です。
- 大手企業への土地の提供を行い、働ける職場を増やし、若い人たちが少しでも離れていかないようにしてほしいです。
- 特産品のブランド化を考えてみてはいかがでしょうか。
- 宇和島の特産品（真珠）をもっともっとアピールしていきましょう。



③ 目指すべきまちづくりの将来像を表すキーワード

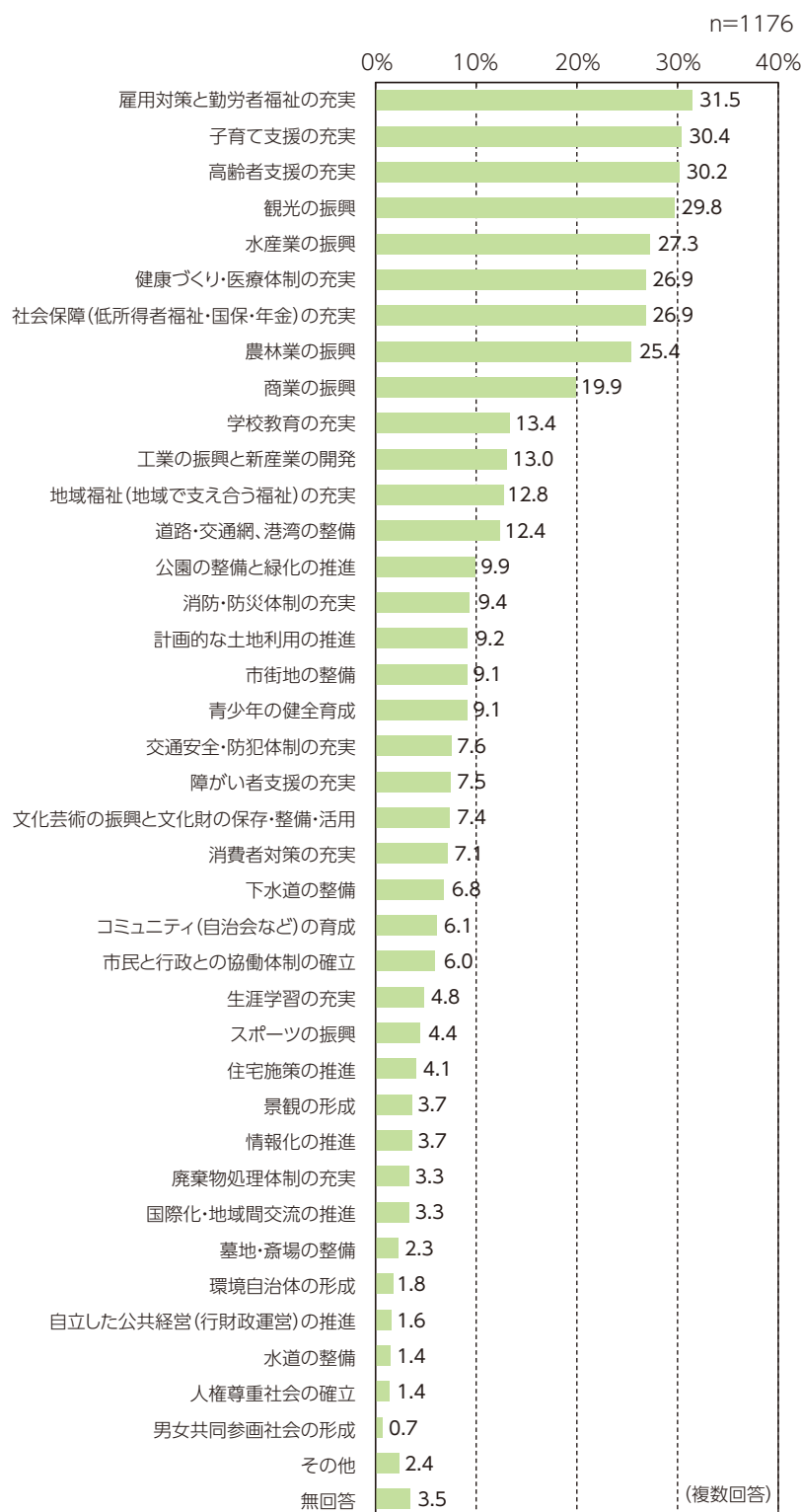
順位	キーワード	%
1	福祉	32.9
2	活気	32.1
3	産業・経済	31.5
4	健康	22.5
5	観光	21.8
6	安心・安全	20.5
7	自然・環境	19.7
8	やすらぎ・癒し	13.4
9	次世代	13.2
10	教育	12.5

将来像のキーワードについては、「福祉」が32.9%で最も多く、「活気」32.1%、「産業・経済」31.5%、「健康」22.5%と続きます。



④ これからのまちづくりで特に力を入れるべき施策

「雇用対策と勤労者福祉の充実」が31.5%で最も多く、次いで「子育て支援の充実」が30.4%、「高齢者支援の充実」が30.2%となっていて、実生活に直接的に関わる対策・支援が上位となりました。



(2) ワークショップにおける市民の意見

本計画の策定にあたり、「まちづくり市民ワークショップ」「まちづくり高校生ワークショップ」を開催し、市民が考える本市の現状や課題、理想の姿、理想の実現に向けて何が必要かについて意見をいただきました。ワークショップの概要及び参加者からいただいた主な意見は次のとおりです。

■まちづくり市民ワークショップ概要

開催期間：2016年10月20日、11月16日、12月12日
(全3回開催)

参 加 者：18歳以上の市内在住者（高校生を除く）

参加人数：第1回21名、第2回17名、第3回22名

テーマ 宇和島市の魅力って？

〈ワークショップで出た意見〉

- 発信力を高めるためにも、行政や地域の住民がつながりを強化していけばいいと考えている。
- 最終的に、子どもたちが誇れる宇和島を目指すことが着地点となるのではないか。
- 山と海のマッチングが素晴らしいと思う。
- 歴史もあり、著名人も輩出しているが、「知らない」という現状がある。大人も子どもと一緒に学べる環境を作っていければ、魅力がさらに伝わるのではないだろうか。
- 自然環境として、海の魅力、山の魅力、それぞれあるが昔に比べて減ってきていると感じている。食べ物の魅力を生かせば、観光客を呼び込めるのではないだろうか。
- 様々な団体が活動しているが、横のつながりが弱いため、発信力が弱いのではないかと感じている。宇和島出身で活躍している方々の力を借りながらPRしていけばいいのではないだろうか。
- 地域おこし協力隊として活動する中で感じる、宇和島の魅力である「南予特有の人の温かさ」「垣根のないオープンさ」は都会にはないものである。

テーマ 宇和島市の伸ばすべきところ

〈ワークショップで出た意見〉

- 人口ピラミッドを見ると、若者の意見が通りにくい状況になっているのではないかと。若い人の意見を聞き入れてほしい。
- 宇和島の良いところは歴史であるが、若い人に興味を持ってもらえていないのが現状である。
- 周知力が必要である。ホームページや SNS^(※1) などにも力を入れているが、届く層が若い人に限られている。イベント自体を「知らなかった」と言われることもある。
- イベントと1次産業をつなげる観光施設などを増やすことが「伸ばすべきところ」ではないか。
- まだまだ十分に活用されていない施設などもあり、それらの活用を再計画すべき。
- 観光都市として目標を持って、街並みの整備を進めていただきたい。「宇和島に来てよかった」「また来たい」と言われるような宇和島にしたい。
- 10年後の宇和島市を考えた時に、勉強ができるだけ教育ではなく、1次産業を支える人材を育てることも考えた方が良いのではないかと。

テーマ 宇和島市の変えたいところ

〈ワークショップで出た意見〉

- 古いものを生かして、新しいものを取り入れることが大切なのではないか。
- 水産高の活躍を中心にもっと PR できないだろうか。
- 子どもだけでなく、大人も含めてすべての世代が学べるような環境を作ることが大切だと思う。
- インターネット環境の充実を図ることで、仕事ができ、宇和島に定住しやすくなるのではないかと。
- 1次産業だけでなく、3次産業も活性化させていければいいのではないかと。
- 宇和島は JR の終着駅。鉄道に興味のある方や子どもたちに、もっと PR してみたいかがだろうか。
- 情報発信の媒体に工夫してもらいたい（広報、回覧板、ホームページ、その他）。
- 街の整備をしていく必要がある。「良い」だけでなく、県外からのお客様をお迎えする体制をとることが大切なのではないだろうか。
- 有識者が先生となり、子どもたちに宇和島のことを教えなければならない。

(※1) ソーシャル・ネットワーキング・サービス：人同士のつながりを支援するインターネット上のサービス

■まちづくり高校生ワークショップ概要

開催期間：2016年12月11日（全1回開催）

参加者：市内在住の高校生

参加人数：34名

テーマ 宇和島市の良いところ、悪いところ

〈ワークショップで出た意見〉

- 良いところは特産品と環境。特に環境面で自然が豊かで住みやすいと思う。
- 宇和島の良いところの中で、最も気になったのは観光地である。もっともっと伸ばすべきだと思う。
- 小中学校の統廃合が気になる。出身校が廃校になることはとても寂しい。
- 田舎の方は、道路の損壊や土砂崩れなどの修繕が遅れることがある。
- 高齢者が多いため、交通の便をよくしなければいけない。特に田舎では、バスが少ないことで、高齢者自身が運転し、事故が起きている。
- 防災速報の放送が聞こえない地域がある。避難が必要な時に困るので改善して欲しい。
- 宇和島活性化のいちばんの近道は、周りの地域にPRすることだと思う。

テーマ 宇和島市をもっと良くするためには？

〈ワークショップで出た意見〉

- みかんフェアは古今東西から、あらゆる柑橘類を集めてみてはどうかと考えた。
- 若い人たちだけではなく、年配の方にも配慮が必要だという話も出た。
- 観光に適したものがあるだけでは人は来ない。商業施設の充実があつてこそ、行ってみたいと思うのではないだろうか。
- 1次産業を知ってもらうための工夫が必要ではないか。
- 大学などで宇和島を出た人は、都会で就職することが多いので、地元で就職できるよう雇用を増やすと良い。
- 自然を大切にすることで災害を減らせるのではないか。

(3) 市民の意識・意向からみた基本的課題

市民への満足度・重要度アンケート調査の結果やワークショップでの意見から、本市における基本的課題を整理します。

① 商業環境の充実

アンケートでは、市内での買い物について、「している」が89.8%と非常に高い割合であるにもかかわらず、商業環境の満足度については、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた“満足している”と回答した人が5.7%なのに対し、「どちらかといえば不満である」と「不満である」を合わせた“不満である”と回答した人が67.5%となっています。

また、市内に複合商業施設がないこと、商店街に活気がなくなっていることなどが意見として挙げられています。施策案として、子どもから高齢者までの幅広い世代が楽しめる複合商業施設の創設により、市内外からの集客数を上げるべきだとの意見がありました。

ワークショップでは、「観光に適したものがあるだけでは人は来ない。商業施設の充実があつてこそ、行ってみたいと思うのではないだろうか。」という意見がありました。

今後は、市民の求める商業環境の充実が求められます。

② 地場産業の振興

アンケートでは、まちづくりで力を入れるべき施策として男性が最も多く回答している項目は「農林業の振興」で33.7%、2位が「水産業の振興」で33.5%となっています。年齢別にみると、50代で「水産業の振興」が33.5%で2位に、60代で「農林業の振興」が32.5%で3位に入っています。

また、本市の基幹産業である水産業や農林業の衰退や、第1次産業を担う後継者不足が指摘されています。

ワークショップでは、「第1次産業を知ってもらうための工夫が必要である。」という意見が出ています。施策案として、特産物を使った商品開発、養殖業の充実などが挙げられています。

今後は、古くからの基幹産業である第1次産業を生かした産業の振興や後継者育成が求められます。

③ 企業誘致による雇用・就労対策

アンケートでは、今後も本市に住み続けたいかという問いに対して、「どちらかといえば住みたくない」または「住みたくない」と回答した人の主な理由とし

で最も多かった項目が、「市内に適当な職場が少ない」で34.8%でした。これからのまちづくりで特に力を入れるべき施策としては、「雇用対策と勤労者福祉の充実」が全42項目中最上位の31.5%となっています。さらに、雇用・就労対策に関する取り組みの満足度について、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた“満足している”と回答した人が6.5%となっている一方、「どちらかといえば不満である」と「不満である」を合わせた“不満である”と回答した人が44.9%となっています。

また、給料が低いことによる、本市へ住み続けることの不安や、仕事がないことにより、市外に出る若者が多いという意見が挙げられています。施策案として、大手企業へ土地提供を行い、働ける職場を増やし、若い人たちが離れていかないようにするという意見が出ました。

ワークショップでは、若者が市内に残るための雇用支援を求める意見が出ています。

今後は、若い世代が活躍できる企業の誘致による安定した雇用の場の創出が求められます。

④ 観光基盤の整備

アンケートでは、観光基盤の整備状況の満足度について「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた“満足している”と回答した人が14.7%となっている一方、「どちらかといえば不満である」と「不満である」を合わせた“不満である”と回答した人が41.1%となっています。

「観光となる名所（風景）がたくさんあるため、観光に力を入れ、観光客を増やす。」などが意見として挙げられています。

ワークショップでは、「歴史と観光の共存」「イベントと第1次産業をつなげる観光施設などを増やすことが『伸ばすべきところ』ではないか。」などの意見が出ています。

今後は、イベントや第1次産業、地域の歴史を活用した観光基盤の整備が求められます。

⑤ 情報化の推進

アンケートでは、市の行政サービスに対する満足度評価として、情報通信網の整備状況は前回調査時の1.05点から今回は0.81点へと落ち込んでいます。

ワークショップでは、市の企画することが市民にほとんど伝わらないという意見が出ています。施策案として、SNS^(※1)によるイベント情報やまちの魅力の発信、市民として情報収集に努めることが挙げられています。

今後は、ICTを活用したまちの情報発信等、情報化の推進が求められます。

(※1) 20 ページ参照

⑥ 道路・公共交通機関の整備

アンケートでは、公共交通機関の便利さの満足度について、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた“満足している”と回答した人が22.9%となっている一方、「どちらかといえば不満である」と「不満である」を合わせた“不満である”と回答した人が40.4%となっています。また、通学路の危険箇所、高齢者の交通手段がないことによる買い物や通院の不便さを挙げる意見がありました。

ワークショップでは、「狭い道を広くしてほしい。」「バス代が高く、便が極端に少ない。」などという意見が出ています。

今後は、道路の拡張を含む整備を検討し、バスなど公共交通機関の充実を図ることが求められます。

⑦ 教育環境の整備と生涯学習の推進

アンケートでは、学校教育環境に関する取り組みの満足度について、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた“満足している”と回答した人が22.5%と低い割合です。生涯学習活動に関する取り組みの満足度についても、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた“満足している”と回答した人が12.4%と低くなっています。生涯学習活動の有無については、「していない」が85.1%と高い割合で回答されています。また、「統合によって廃校になってしまった小学校を高齢者の生涯学習の場として使ってはどうか。」といった学校の統廃合に関する意見が挙げられています。

ワークショップでは、「子どもだけではなく、大人も含めてすべての世代が学べるような環境をつくるのが大切だと思う。」などの意見が出ています。

今後は、学校の統廃合の見直しと、世代を問わない生涯学習の推進が求められます。

⑧ 防災対策

アンケートでは、消防・防災体制の満足度は、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた“満足している”と回答した人が45.0%、「どちらかといえば不満である」と「不満である」を合わせた“不満である”と回答した人が9.7%となっているものの、災害対策の有無については「していない」が48.6%と半数近くに上っています。こうした結果から、市民の自発的な防災対策が不十分であるといえます。また、津波に対する避難場所への不安や防災訓練実施を希望する意見が挙がりました。施策案として、地区ごとの防災訓練の実施などが挙げられています。

ワークショップでは、「防災速報の放送が聞こえない地域がある。避難が必要な時に困るので改善してほしい。」という意見が出ており、施策案として、「宇和島のどこに逃げればいいのか、安全な場所（高い場所）を示した防災マップがあれば、多くの人が安全に避難できると思う。」という意見も挙がっていました。

今後は、事前に防災対策を実施し、いざ避難を要する際、安全に逃げられる工夫が求められます。

⑨ 子育て環境の充実

アンケートでは、力を入れるべき施策として「子育て支援の充実」が2位の30.4%となっています。さらに属性別でみると、女性では、最も回答の多かった項目です。また、公園や児童館がないことや、遊具の老朽化により子どもたちを安全に遊ばせられないという意見が出ています。施策案として、「子どもたちの福祉を充実させて、人材育成・教育の機会を与えてほしい。子育て家庭の負担を軽くし、出生率の向上を。」という声が挙がりました。

ワークショップでは、「公園自体はあるが、年配者ばかりが利用している。それに対して、子どもたちが気兼ねなく遊べる公園が少ないように思う。」という意見が出ています。

今後は、公園の増設や児童館の創設など子育て環境の充実が求められます。

⑩ 医療体制の充実

アンケートでは、「高齢者に配慮し、市立病院の利便性を向上してほしい。」「救急医療体制を充実させてほしい。」といった意見が出ています。

ワークショップでは、急患を受け入れる病院を希望する意見が挙げられました。

今後は、急患にも対応した医療体制の充実が求められます。

